



## 土地改良区設立70周年を迎えて

明治用水土地改良区  
理事長 杉浦正行

明治用水は1880(明治13)年に通水して以来、管理組織を、井組総代、土功会、普通水利組合と変遷してまいりましたが、戦後の食糧増産の要請に合わせて農地と水利施設の整備を推進する土地改良法の制定により、1952(昭和27)年4月1日に明治用水土地改良区が設立され、今年で70周年を迎えました。これもひとえに組合員、関係者の皆様のご理解、ご支援によるものであります。

さて、明治用水が開削されるまでの碧海台地はやせた土地、不毛の原野でありましたが、用水が行きわたるにつれ、次第に美田へと姿を変えて行きました。明治用水が開削される前の碧海台地の水田面積は2,300ヘクタールほどでしたが、1907(明治40)年頃には8,000ヘクタールを超す一大穀倉地帯となりました。

大正末期には「日本デンマーク」とよばれるまでに農業が盛んになり、農業先進地である安城を中心とした碧海郡を視察するために、全国各地から人々が訪れました。この礎を築いたのは用水開削の計画者である都築弥厚であります。用水の測量を完成した石川喜平、岡本兵松、伊豫田与八郎をはじめとする開削功労者や農業の指導者である山崎延吉、組合事業を展開した岩瀬和市の活躍なくしてはその発展を見ることはできません。

本冊子では日本デンマークの礎を築いた先人の活躍を称え、これからの碧海野の発展を願うため、水のかんきょう学習館で配布していましたが、各人物の説明書を取りまとめるとともに、明治用水を語るうえで欠かすことのできない、水源かん養林や矢作川沿岸水質保全対策協議会(矢水協)、通水150年へ向けたSDGsの取組についても掲載しました。地域の歴史を紐解く皆様の一助になれば幸いです。

## 目次

### 1. 明治用水開削・日本デンマークを築いた人びと

・ 都築弥厚 .....	1
・ 岡本兵松 .....	3
・ 伊豫田与八郎 .....	5
・ 石川喜平 .....	7
・ 岡田菊次郎 .....	9
・ 山崎延吉 .....	11
・ 岩瀬和市 .....	13
・ 服部長七 .....	15
・ 明治用水取水口の変遷 .....	17

### 2. 明治用水水源かん養林・矢水協

・ 水源かん養林事業 .....	19
・ 「流域は一つ 運命共同体」 .....	21

### 3. 明治用水とSDGs

・ 通水150年へ ～明治用水は開削当初からSDGs～ .....	23
-----------------------------------	----

表紙の絵は、1940(昭和15)年代の安城町(現愛知県安城市)の様子を描いた鳥瞰図です。1891(明治24)年に東海道線安城駅ができると、県立農林学校や県立農事試験場、板倉農場などの農業関連施設のほか、警察署、病院、工場などが建ち並び、農業とともに町も大きく発展しました。

「日本デンマーク」と呼ばれたこの地域は、学校の教科書にも載るほど全国からの注目を集めました。

(表紙の絵:「安城町鳥瞰図」安城市歴史博物館蔵)